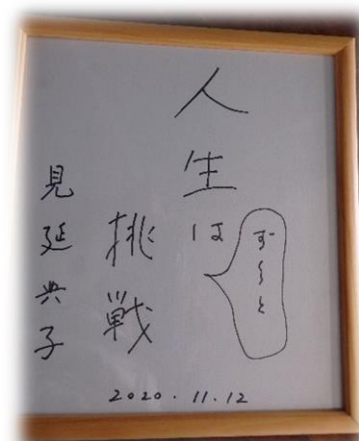


3年生文化講演会(11月12日)を振り返って 特集号

「広島ゆかりの頼山陽」講師 見延典子先生



【生徒感想 一部紹介】

- ◆広島から京都に脱藩し、歴史書を書くために法をも犯してしまうほどの芯の強さは、今自分の進路実現のために見習うべきだと思った。なりたいと思えばなんでもなれる。そのための人並み以上の努力や情熱の必要性に改めて気付くことができた。
- ◆広島に住んでいながら頼山陽やその他の偉人や文化の事を何も知らないのもっと知っていくべきだと思った。現代より家柄や生まれた順番などの制約が多いなか、それらに反発し、夢を叶えたと知って尊敬の気持ちが生まれ、勇気ももらえた。評価は時代によって変わるという言葉に心に残しつつ努力を続けようと思う。
- ◆自分の夢やしたいことを簡単に言えてそれを叶えるための努力をすることができる今の時代に生きていることをありがたく思いました。自由であることに感謝しながら過ごしたいと思います。
- ◆十三歳の頃になりたいと言っていたことを実現したのもすごいと思った。言葉にした方がかなうのかなと思った。遊ぶときは遊んで、勉強するときはするという生き方はがとてまかついい。

◆頼山陽は戦後批判を受けたけれど、また再評価されていると知って、周りの評価をもっと気にせずに行きたいと思った。

◆幕末の尊皇攘夷運動に大きな影響を与えた人が広島出身であったことを初めて知った。時代に押しつぶされない精神を見習いたいと思った。

◆最初の方のお話で、見延先生の卒業論文が本や映画になったことや、校長先生と以前に知り合いであったことなどが紹介され、ずいぶん不思議な巡り合わせを感じた。先生が、頼山陽の人格の「揺れ」に親しみや魅力を感じたことに共感した。そういった、物事や人物が単純でなく「よくわからない」という感情が私たちを知ることに突き動かしているのだと思った。十三歳のときにもうしっかりとした漢詩を作り意見や考えを表明できていたことに驚いた。昔の人はいまよりずっと早く大人になり、流星のように一生を駆け抜けていってしまうとも思う。

◆「歴史に名を刻むような人になりたい」と十三歳の頃に書ける、さらに実現させることがすごいと思った。頼山陽を研究する中で、周囲の人や、社会的背景がわかるようになったとおっしゃったが、これは学ぶ分野が違ってもあてはまることだと思った。

◆人物の性格を詳しく知ると山陽も実在する人物だと実感でき、武士になる運命から座敷牢に入ってまで逃れた、山陽の夢を追いかける気持ちや覚悟を本当のものとして感じる事ができました。私は趣味で散文を書いているので、先生ご自身のお話をもっと聞きたかったです。

◆広島県民でありながら全く知らなかった人物だったので、今回の講演を通して、新しい世界が広がったと思う。

◆最初は全く頼山陽に興味がなかったが、全く親の言うことを聞かない頼山陽の様子が当時高校生だった息子さんと重なり、そんな人がどうして偉い人になれたのかと興味を持ち始めたという部分が印象深かった。自分の意識していない所にも興味深いことが実は多く隠れているのではないかと…と思い、興味がないものをシャットアウトするのではなく、すこしでも触れる機会を増やしてみようと思います。

見延先生、どうもありがとうございました。

【講演で紹介していただいた 頼山陽十三歳(1793年)の漢詩】

きちゅう
癸丑の歳 偶作 頼山陽

十有三春秋、逝く者は已に水の如し。

天地始終なく、人生生死有り。

安んぞ古人に類して、千載青史に列するを得ん。